

2023年4月10日

今月のひとこと

## 【Vol.244】 今月のひとこと

今月の  
ひとこと

## 稲盛さんが語る成功に必要なこと

私は30数年来、瞑想をしています。超越瞑想、TMと呼ばれる瞑想法ですが、私にとっては非常に多くの価値を与えてくれたものだと思っています。この瞑想法の熱心な支援者だったのが2022年8月24日に逝去された稲盛和夫さんでした。TMのニューズレター「UTOPIA」では本年2月、3月の二ヶ月にわたって追悼特別記事「純粹なる意識が成功へと導く」という講演の記事を掲載しています。



この講演は1987年にマハリシ総合研究所の全国大会でのお話しを同研究所の代表、鈴木志津夫氏がまとめたものです。稲盛さんの経営思想の根底にある意識、人生哲学が稲盛さんの言葉で非常に分かりやすく語られているので今回はそれを紹介します。

稲盛さんは27歳で起業されています。お金も応援者もない若い技術者が世界的な企業を一代で築き上げることができた理由として「自分の力だけではとても実現できなかった」と語っています。まさに「神のなせる業」だと思えないとおっしゃっています。

氏は企業経営を立派にやっていくためには三つのことが必要だと述べています。それらは闘争心、努力、才覚（創造力）です。しかし、これらだけでは成功はできない。なぜなら例えば闘争心は失敗への引き金にもなります。きっと闘争心は敵を作るといったことではないかと推察します。また、才覚、商才も自分が儲けようとする相手に損を与えてしまうことがある。そのような商売をしていると相手を傷つける。

稲盛さんは「闘争心、努力、才覚などを自由に動かし使っているもの、それはその人が持つ『徳』である。徳がその人を動かしているなら心配ないが、徳を伴わずにその人を動かしていることがある」とおっしゃっています。才覚などが前面にでて、人格が埋もれてしまっている場合には成功は危ういということです。

要するに「徳というのは相手の人に善きことをしてあげる心」と述べられています。人知れず徳を積んでいくことで人格が形成されていく。これが「陰徳を積む」ということで、これが成功のために絶対に必要なことであるとのおっしゃっています。まさに相手が気づかないような徳、「陰徳」の積立投資ということですね。稲盛さんの成功の一端を見たような気がしました。

(岡本 和久)



## FIWA®からのお知らせ・セミナー予定

### 第62回FIWA®サムライズ

開催形式： ハイブリッド 主催担当 岩城みずほ

開催日時： 4月20日(木) 19:00～20:45

会場： 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア 地下1階002

講演・講師： 共同通信社編集委員 橋本 卓典

『NISA拡充で資産運用振興が期待される今だからこそ、日米の資産運用史、知られざる秘話から資産運用革命の課題と展望を考えたい』

備考： お申込み方法は以下をご参照ください

<https://somerise.net/2023/03/12/1635/>

### 第63回FIWA®サムライズ勉強会スペシャル

開催形式： ハイブリッド 主催担当 岩城みずほ

開催日時： 5月12日(金) 14:00～16:45

会場： QUESTION (〒604-8006京都市中京区河原町通御池下る 下丸屋町390-2)

講演・講師：

14:00～14:50 講演

『資産運用改革と地域金融機関の可能性』共同通信社編集委員 橋本卓典氏

15:00～16:30 パネルディスカッション『顧客本位ってなんだ』

モデレータ 日本経済新聞編集委員 田村正之氏

登壇者 (ゲスト五十音順)

共同通信社編集委員 橋本卓典氏

京都信用金庫 理事 個人金融本部長 伴龍太氏

北國銀行 ライフプラン部ライフプラングループ長 福田雅之氏

NPOみんなのお金のアドバイザー協会理事 高橋忠寛

NPOみんなのお金のアドバイザー協会副理事長 岩城みずほ

16:30～16:45 質疑応答

備考： 勉強会の詳細、参加のお申込みは、FIWA®サイトにて承ります。

<https://somerise.net/2023/04/03/1675/>

**第212回FIWA®マンスリー・セミナー**

開催形式： On Line 主催担当 岡本和久、赤堀薫里

開催日時： 5月21日(日) 12:30～15:30

会場： On Line

講演・講師：

岡本 和久 「なぜ瞑想がよい投資成果を生むのか」

ガンガー総合研究所 代表取締役社長 藤井 義彦氏

「自分を活かし、社会に貢献する（活私奉公）と人生設計」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

参加費： 3300円

**FIWA presents 「マネーマネーマネーfor you」 始まる**

金融商品の販売にかかわらない独立系アドバイザーが集まってNPO法人みんなのお金のアドバイザー協会（FIWA）で、新しくポッドキャスト配信を始めました。ポッドキャストとは、後からいつでも聞くことができるラジオのようなものです。今後はFIWA会員のゲストトークも予定しています。ゲストトップバッターは岡本さんの予定です。



パーソナリティは小屋と、キャサリンとナンシーの3人が務めています。お金に関するさまざまな気になることを楽しく語っています。40代の子育て中の3人が幅広くFIWAのことを知ってもらうために、頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。

マネーマネーマネー for you



今月号の記事をすべてダウンロード

**このページを印刷する**

カテゴリー 今月のひとこと

タグ 【Vol.244】 2023年04月17日発行



2023年4月10日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

## 【Vol.244】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演1）

### 超高齢社会における資産形成と資産活用

講演：合同会社フィンウェル研究所代表

野尻 哲史氏

レポーター：赤堀 薫里

#### 野尻 哲史氏 プロフィール

国内外証券会社調査部を経て2006年から外資系運用会社で投資啓発活動に従事。2019年5月に合同会社フィンウェル研究所を設立し代表に。退職後のお金との向き合い方を資産運用だけでなく勤労・移住など多方面から分析する。日本証券アナリスト協会検定会員、行動経済学会等の会員の他、2019年より金融審議会市場ワーキンググループ、2022年9月より同顧客本位タスクフォースの委員も務める。「IFAとは何者か」(金融財政事情研究会)など著書多数。



超々高齢化社会の時代では、山登りである資産形成と山下りである資産活用を比較すると、資産活用は取崩しに伴うさまざまな大変な作業がでできます。

最近、資産形成と資産運用がごっちゃで使われていることが多い。私は資産形成や資産活用は、目標・目的であって、資産運用とは、そのためのツールだと思っています。

手段と目的をごっちゃにしてしまうと、相変わらず『資産形成のリスクは？』と言って、リスクリターンのリスクを説明することが、平気で起きています。これは避けてほしい。

NISAの概要を資産形成と資産活用に分けてみると、イギリスでは、資産活用に対するシフトが進んでいます。ISAの特徴を少しお話します。特にスイッチングが自由にできる。株式型から貯蓄型への資金移動などです。スイッチングは、最初の段階から可能でしたが、時間が経つにつれて株式型から貯蓄型への資金移動、持っている資産の保守化を認めています。相続ISAとは、ご夫婦の中で、先に亡くなった方のISAの残高を残された方に上手に移していくためのアイデアです。相続に際し夫婦間の個別の口座を夫婦として利用できるようにする。こんなアイデアを次々にアドオンしていきました。

日本の場合、どちらかというと、資産形成層向けの仕組みになっています。次の段階こそNISAは資産活用層にももう少し優しくなってほしいと思います。全国家計構造調査の年代別の貯蓄現在高は、個人金融資産とはイコールではないですが、ほぼそれに近い数字だということで分析をしています。

貯蓄現在高のうち60歳以上が占めるシェアは63.5%。3分の2が60歳以上の高齢者が保有しているという意味では、総合的なデータでした。驚いたことは、39歳以下の場合、その10分の1である6.2%でした。それぞれの年代の貯蓄の現在高全体を100にした時の商品別の構成比の中で、60歳以上の投資信託は5.7%ですが、39歳以下

利用規約

2.8%と半分です。全体で10分の1、それが、投信の保有比率で半分ということは、39歳以下のところが1とすると、60歳以上ところは20の力を持っていることになります。

現役層への『資産形成を頑張る！』というメッセージは大変良いと思いますが、高齢層の有価証券を売却する流れ、投資から貯蓄へという流れを抑制しておかないと、20倍の力で売ってきます。個人金融資産に占める有価証券の比率は上がってこないのではないのかという危惧を持っています。

実際、制度的にも現金化する流れはたくさんあります。例えば退職の時、今はDCで資産形成される方がだんだん増えてきています。しかし退職所得控除を使って売却、一時引き出しをしようとする、これを現金化しなければいけない。もし制度を上手に変えて、売却しないで持っている有価証券をそのまま課税口座にロールオーバーできるようにしたら、かなり現金化の比率は減るのではないかと思います。

同様に、認知判断能力が低下をして、一生懸命、成年後見制度を使いましょうと言われるますが、これをやると、家庭裁判所の指導もあって、ほぼほぼ成年後見人は現金化をします。これもかなり大きい金額になります。

市場ワーキンググループの時に、ある民間企業の研究所の報告書で、2030年の認知症患者が保有する有価証券の総額は215兆円という数字が発表されました。とてつもなく大きな金額が売却という形になる。アメリカにはブルードレント・インベスター・ルールがあり、成年後見人もポートフォリオで資産のコントロールをすべきだとなっています。日本でもこのような方法が必要なのではないかと考えています。また、相続時の有価証券の評価についても、もう少し平仄を合わせるアイデアもあるのではないのか。

このような制度的なアプローチが1つ大事なポイントである一方、取り崩しに対する考え方の普及がもう少し必要になってくるでしょう。取り崩しのコンセプトは、資産形成の山登りと資産活用の山下りと大きく色分けして説明をしています。山下りの使うだけの時代は、退職をしたら現金化をして、それを取り崩していくという昭和的な発想が非常に強く残っている。これが65歳なのか、もうちょっと後なのかは別にして、運用は現役の仕事というように考えるので、多くの方が今でも、『退職の時点で、リーマンショックみたいなものが起きたらどうしたらいいんですか？』と言います。それは、ある時点で全額を売却するという発想があるからだと思います。

資産形成である山登りと資産活用である山下りの間を分ける。つまりステージを3つに分けます。真ん中は、運用を続けるけれど、その運用資産から上手に取り崩していきます。使いながら運用する時代を入れて、ここをずっと資産運用をしていきたいと考えています。もちろん一生涯運用を続けていくことは大事なことです、できなくなる時も十分にあるわけです。まずはあるところまで運用は続け、その後はもう使うだけの時代にするというので、十分なんじゃないかなと考えています。

講演では、資産倍増プランの登場で『貯蓄から投資へ』という言葉が使われ始めたことへの危惧や、退職世代に優しくなってほしい新NISAについて。また、使いながら運用するアプローチについての解説。新NISAによる金融業界の向かう方向性について説明。最後に独自のアンケート調査をもとに高齢者を社会の負担ではなく資産に変えていく興味深い提言をしてくださいました。

(文責 FIWA)

## フリー・ディスカッション

**参加者** | ご相談者は現役世代の方がほとんどなので、なかなか高齢世代、退職後のアドバイスに携わることもなく、社内での従業員研修でも、結局は『DCをどう活用するのか、資産をどう形成していくのか』というところばかりを見ていました。今日のお話を伺い、その後のことも念頭におく。DCの資産形成についていうと、ターゲット

イヤじゃないですけど60歳に近づくとつれて『安定的なものに変えていきましょう！』みたいなアドバイスが一般的で、私もそう思い込んでアドバイスをしていたなと反省しています。野尻先生は、定年前後の運用も、やはり他の商品のポートフォリオを変えた方がいいとお考えでしょうか。

**野尻** | これは全ての方に共通するとは思っていません。収益率の配列リスクは、取崩しをする時の前半である、前の方のパフォーマンスが、全体に大きな影響を与えるということが、収益率配列のリスクといわれているポイントです。これを逆手にとる。運用資産の取り崩しの最初の頃が、ちょっとマーケット厳しいとか、例えば、3%運用だったけど、平均すると、1~2%というように、自分が想定するパフォーマンスよりも下を走っているときは、そこを引き出さないというアイデアもあります。

その期間は、有価証券から取り崩さない。そこは岡本さんとは違う提案になりますが、現預金を先に取り崩していき、その時期をカバーしていく、というアイデアもあります。私自身の発想からすると、現役世代から積立ててきた資産は、信頼がおける商品でやってきています。これを退職したから変える必要はないと思います。基本は現役世代も退職してからも変わらない商品でいいです。

ただし、全体における比率を下げることで、ポートフォリオの比率を下げればいいのかと思います。ポートフォリオとは自分の資産の全体です。現金、預金も全部含めたポートフォリオの中で有価証券の比率を下げていけばいい。ところが現金・預金から取り崩すと『それは逆じゃん！』と思われるかもしれませんが、実は多くの日本人は、退職時点で現金預金のごそっと入ってきます。退職金やDCを一括で引き出そうとすると、全部現金で入ってきます。その時点で有価証券比率が、がさっと下がります。そこからどうやってあるべき比率に戻そうかとする時、出てきた現金を一気に投資することはなかなか難しい。気持ちのうえでも、この間まで『積立てだ』といわれていたのに、そこだけ一括に戻すことは、なかなかできない。そこで、当面の間、他の運用資産には手を付けないで、がさっと増えたキャッシュを生活資金に充てて、全体の資金の有価証券比率をもとに戻していく。

このやり方も一つの提案になると思います。だから『ポートフォリオを変えるべきか？』と聞かれたら、変えるべきだと思いますが、ちゃんと目標値を作った段階で、『今はどちらにずれているのか？』という目線が一つと、商品設計を変える必要はないと私は思っています。

**岡本** | おっしゃるとおり、リタイア時点でだいたい50・50ぐらいになるケースが多いです。

それまで積み上げてきたリスク資産のポートフォリオは、現金ががばっと入ってきた退職金で、およそ50対50ぐらいになる。私は基本的には生活者がマーケット・タイミングで運用を変えるのは危険だと思っています。

ですから、余命年数で割り算してリスク資産からだんだん取り崩していく。もちろん、リスク資産を持っている以上、引き出せる額は大きくなったり小さくなったりします。といっても十分に分散されていればゼロになることはないわけです。生活スタイルで、ちょっと楽になったり、苦しくなったりすることを受け入れることで、現金は先に延ばしていくというように私は考えています。

銘柄としては全世界株式インデックス・ファンド。残高が大きくて、コストの低いものをしっかり積立てて持っていればいい。野尻さんも言いましたが、皆さんが時々間違われることは、リタイアした時点で、全部現金化してなくてはいけないのではないのかと思っている人が結構います。30歳で投資をしたとき、35年投資をして65歳の時に引き出すとしても、次の31歳の時に投資したお金は株式のまま、次の年に繰り越せるわけです。全ての資産が35年投資になります。そして最後に積み立てた分を使うのは100何歳かになるわけです。その前にももちろん生活費の部分として、だんだん株式の部分は減らしていく。最後は現金になってしまう。その振れ幅はだんだん小さくなっていきますよ、ということです。

だから、どっちが好きか？ということでもいいのではないのかと思います。こっちが絶対的に正しいとか、正しくないとか、投資の世界はそんなものではないですから。正解はいろいろあっていいのです。

**参加者** | 今日お話にあった、取崩しのところで、お伺いしたいです。60歳以降になって、株式中心だったものをある程度、債券に振り分けたいとか、もうちょっと、リスクの低いものにしたい場合、NISAの中だけでやろうとすると、かなりきついのではないかと思います。この考え方としては、NISAは元本ベースでいくらと決まっているので、できれば株式はNISAの中に置いておき、リスクを、現金の比率を落としていくとか、債券と他のアセットとの配分を変えて落とす場合、こういう制約がある中でやろうとすると、NISAは株式、もうちょっとリスクの低いものは課税口座みたいなのと、そういう使い方を消費者としては考えた方がいいのでしょうか？

**野尻** | ご指摘の通りだと思います。退職世代というか資産活用世代にとってはあまり優しくないですよ。『こんなによくなった！』と世間の人たちは言っている新しいNISAなんですけど、スイッチングができない。資産の中のリスク性のものをどれだけコントロールできるのか、みたいなことを変更できる余地を持っていないというのは、私が知っている限り、海外の非課税制度の中で一つありません。とくにNISAのもとになったISAは最初に出上がった時からスイッチングが可能です。

2014年の日本のNISAをスタートさせるとき、かなり現地に行って、取材や日本の当局の人をお連れしてディスカッションをしました。当時の日本の発想からすると、回転売買をする人たちがいっぱいいて、これは業者が悪いので、日本はこれを認めないために、一度買ったら売らせないルールにしたとなるわけです。

とても変なのは、二者択一をして、こっちに決めたら、みんなこっちに従えというわけです。こんなおかしい制度はだめだとずっと申し上げています。しかし、10年経ってもできていない最大の課題は、一度買ったら売ってはいけないという、スイッチングを認めない制度設計だと思います。

1800万円という金額は、普通に退職世代で運用している方にとっては大きな金額だと思います。これもマスコミの人と議論をすると、こんなに大きな金額なので、金持ち優遇の前提だと言われます。実務的にはあまりわからずに言っているのかしら？と思ってしまう。

『積立をやるんだ！』という人たちだけのための制度設計に落ちてしまっている。これは変える必要があります。次の制度設計として考えるときはここが課題でしょう。ただ、『今の私たちはどうしたらいいの？』と考えたら、株式はNISAでそれ以外のものは課税口座で持つというのが一つのアイデアだと思います。今の場合、債券のポートフォリオを持つと言っても持ちようがないので、今のところ、株とキャッシュのポートフォリオが、上手なアプローチができるのかもしれないなというところです。

**岡本** | ある程度、短期売買が活発に行われないと金融機関も困ると、そういった配慮もあるのかもしれませんね。

**野尻** | 今、原稿をいろいろなところ書いていますが、今度のNISAは販売手数料が0に急速に向かわせる力を持っている。5年たった後に、もう日本の投資信託の販売手数料は0が前提になるのではないのでしょうか。今回の新NISAはそれぐらいの力を持っていると私は思っています。

**岡本** | とても有益なお話しでした。今日もありがとうございました。

(文責 FIWA)

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 1

タグ 【Vol.244】 2023年04月17日発行



2023年4月10日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

## 【Vol.244】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演2）

### ホーリスティックなライフプラン

講演 FIWA理事長  
岡本 和久 CFA, FIWA  
レポーター 赤堀 薫里

我々が生きている目的は、お金持ちになることでもなければ、出世をすることでもない。しあわせ持ちになるということが最終的な目的です。そのために必要なことがホーリスティックなライフプラン。



一般的にライフプランとは、家計の資産、負債、収入と支出、年金や保険の問題等が中心になります。しかしその前にきちんとライフプランを考えておかないといけません。お金に絡んだ部分はマネープラン。マネープランはライフプランの中のごく一部分です。人生というどんな大きな山にどうやって登っていきたいのか、自分の気持ちの中で確信を持っていくということが大事だと思います。

お金に関するプランの前に、人生を通じてのロードマップをきちんと持つことが大事です。自分の人生のビジョンとミッション、それを考えていきましょう。そのヒントになるのが、もし自分が人生最後の日を迎えた時にどんな言葉を残したいのかを真剣に考えてみるということです。みなさん1人1人違うと思いますが、それは一つのヒントになると思います。表面的な自分ではなくて最終的に本当の自分がどういう自分になりたいのか。それがビジョンです。その過程で必要とされるのがミッションです。自分の性格を知っておく必要があるでしょう。

お金について私は75文字の資産運用を提唱しています。まず、就業中の人のための資産形成。若いうちから毎月、収入の一定比率を全世界の株式インデックス投信を対象とし、非課税口座で積立投資をする。相場変動に関わらずリタイアするまで絶対に止めない。続けるには、分散、積立、長期、継続、低コスト。分散がとても大事です。これだけです。

それでは資産活用はどのように運用するのか。現在の時価に相当する資産額を想定した余命年数で割って、その分を株式投資から売却していく。全部株式投資を売却した場合、あとは債券や預金を現金化して、それに年金等を加えて、幸福感が最大化するような使い方をします。これをやっている、絶対に亡くなるまで資産が枯渇することはありません。ただし、100歳まで生きると思っていたのに110歳まで生きそうだということであれば、割り算の部分の余命年数を増やせばいいわけです。その分、毎月降ろせる金額は減ってはいきますが、なくなることはない。その程度の管理であれば誰でも簡単にできると思います。一番大切なことは続けること、続けなければ成功はない。

長期投資の長旅の途中で3つの悪魔と遭遇します。最初は無知の悪魔。『株なんてやってもしょうがない。あんなものはまともな人間がやるものではない』と、最初は思っても、いろいろ勉強をして、『やっぱりやらなくてははいけない。』そうするとドカンと一回下がる。恐怖におびえることになる。これが2番目の悪魔です。



『もうやめようか。』と思いながらも、それを乗り越えて続けると今度は欲望の悪魔。『こうやったら儲かるのではないのか』と、いろいろなセミナーに出たり、YouTubeを見たりして、おいしそうな話に手を出す。無知、恐怖、欲望、これらの3つの悪魔を退治する。

4（し）ない。急がない、欲張らない、考えすぎない、争わない。そして5（ご）無用。相場観はいりません。銘柄選択力。これもいりません。全世界の株式インデックス一本選び積み立てればいい。経済見通しもいりません。瞬時の判断もいりません。複雑な投資理論もいりません。ただ続ければいい。でも、それが結構、難しいところです。そのためにも投資方針書をきちんと作るのがよいと思います。

ホンモノのプロの金融商品の販売をしないFIWA®のようなアドバイザーを活用すれば、すごく効率がいいと思います。自分の将来のための資金である退職後の資金が流出することは、無駄なことです。アドバイザーは、儲かる銘柄を教えてくれることよりも、ディフェンシブなこと、損をしないですむことをきちんとやって、合理的なリターンをしっかりとることを教えていくことだと思います。

講演では人生の3つのステージについて、また、お金の現実を知ること。資産運用の六つの階梯について、資産運用の支える4本の柱の説明。最後に本多静六先生の含蓄に富んだ言葉をご紹介いただきました。

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 2

タグ 【Vol.244】 2023年04月17日発行

2023年4月10日

トリビア・コーナー

## 【Vol.244】知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



## 桃源郷



帰去来辞（帰りなんいざ、田園 将にあれなんとす・・・）で有名な陶淵明の詩に「桃花源記」というのがある。ある漁師が、どこまでも続く溪谷を船で奥へ奥へと遡った。どこまで来たのか分からなくなった頃、突然桃の花が一面に咲き乱れる林が両岸に広がった。

その美しさ、花びらの舞い落ちる様に心魅かれた男は、その源を探ろうと桃の花の中をさらに遡り、ついに桃林の奥に、秦の時代からの戦乱を逃れ、数百年もの間世界から隔絶された『桃源郷』を発見した。

そこはどこにでもあるような農村の風景でありながら清楚で美しく、人はみな微笑みを絶やさず働き、見るものすべてが和らいでいた。彼はそこで手厚いもてなしを受けた後、帰って行った。しかしその後、漁師も、他の誰も、二度とその場所を見つけることは出来なかったという。

ここから「桃源郷」という言葉が生まれたのだが、トマス・モアの「ユートピア」思想と同様、理想郷を求める人

間の姿は洋の東西、かわらないのかもしれない。

・写真は4月上・中旬に桃の花が満開になる甲州盆地

### ミーハー (の語源)

世の中の流行に流されやすい人や芸能人の動静などを知ったかぶりする人のことを「ミーハー」という。低俗な趣味や流行に夢中になる教養の低い人に対する蔑称のような意味があるためか、最近はあまり聞かれなくなっている。

実はこの言葉、昭和2年に公開された松竹映画「稚児の剣法」(サイレント映画)で林長二郎(のちの長谷川一夫)のファンのために作られた言葉である。美貌の俳優・林長二郎は若い女性に大人気となり、彼女たちが好きな「みつめ」と「はやし長二郎大好き人間」の「み」と「は」を繋げてできたのが「ミーハー」というキャッチコピーだったのである。

### 「かつて」or「かつて」

「以前・昔」などの意味で使われる「かつて」。小文字の「っ」が入る「かつて」という人がたまにいるが、これは誤り。

戦前の日本語では、つまる音を小文字の「っ」と書く習慣があまりなかった。たとえば、「行つて」「買つて」と「つ」を大きく書いて「いって」「かつて」と読むのがふつうだった。

このため、本来は「かつて」と書いてそのまま「かつて」と読むのが正しいにもかかわらず、間違っ「かつて」と読む人が出てきた。戦後、大きい「つ」と小さい「っ」とをきちんと書き分けるようになったものの、「かつて」と言ういい方は後々まで生き残ったのである。

(追記) カムチャッカ半島ではなくカムチャツカ半島、また、ウオッカではなくウオツカが正しい表記(ツは大文字)

### お開き (の語源)

宴会が終わるときなどに「ここで『お開き』にします」などというが、「終わり」「散会にする」時に「お開き」とは違和感のある言葉のように感じる。

「お開き」は本来、武士が「退陣する」意で使っていた忌み言葉。「退く」「逃げる」などの言葉を嫌った武士が「ここを明け渡してやる」という意味で「お開き」を使ったのが始まりで、次第に「去る」「帰る」などの意味に転じ、明治時代以降「終わる」「閉じる」の意味で使われるようになったのである。

### 破天荒

中国には随の時代に始まり清まで続いた「科挙」という官吏登用試験があった。その試験に100年以上経た後も、荊州(現在の湖北省)からは合格者が一人も出ず、世間の人はこの状況を「天荒」と称した。

天荒とは本来「未開の地」もしくは「凶作などで雑草の生い茂る様」を言う。やがて劉蛻(りゅうぜい)という若者が荊州から初めて科挙に合格した。人々は「天荒を破った」と言った。ここから今まで誰も成しえなかった偉業を成し遂げることを「破天荒」といようになったのである。



将棋の藤井聡太竜王は3月19日に渡辺名人・棋王から棋王戦に勝利し、史上最年少の20歳8か月で六冠を獲得した。まさに「破天荒」な偉業を成し遂げたといえよう。

このページを印刷する

カテゴリー

トリビア・コーナー

タグ

【Vol.244】 2023年04月17日発行



2023年4月10日

FIWA認定会員 投稿コーナー

## 【Vol.244】FIWA認定会員 投稿コーナー

つみたてインディくん

寄稿：ファイナンシャルプランナー CFP®

FIWA®協認定正会員

上山 光男氏

\* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

### 自己紹介

米国とスペインでの11年間を含む20年間の国際部門での勤務の後、銀行（CFP）でさらに数年間、国内の企業および個人の財務に従事しました。銀行退社後、化学会社、システム会社、ベンチャー企業へキャリアチェンジ。放送大学で国際政治情報学を専攻（修士）。大阪生まれ、自然豊かな関西が大好き（趣味はトレイルランニング）



「つみたてインディくん」というのは、FIWA®（特定非営利活動法人みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®）が開発したシミュレーションソフトです。FIWA®のホームページには、下記の説明が掲載されています。

本シミュレーションソフトは、クラウドファンディングでご支援いただいた資金で開発し、実際の過去データに基づいて資産時価総額の上下動を伴う推移、投資リターン、リスクなどが分かりやすく試算できるほか、複数の株価指数の過去データに基づく定額積立投資シミュレーション、積立投資による将来シミュレーション、定額取り崩しによる将来シミュレーションなどをご利用いただけます。

説明にあるように、このソフトでは、4種類のシミュレーションが可能です。

- 株価指数連動定額積立投資シミュレーション（過去データに基づく分析）
- 複数の株価指数の過去データに基づく定額積立投資のケース（過去データに基づく分析）
- 積立投資による将来の資産シミュレーション
- 定額取り崩しによる将来の資産シミュレーション

先日、70代のご夫婦が、1年前に作成をお手伝いしたライフプランの見直しの相談に来られました。相談のポイントは、90歳くらいまでは元気でいると思う（元気でいたい）ので、現在の金融資産を運用しながら、取り崩して生活するためのアドバイスが欲しいとのことでした。

この1年間プランを実践してみて、インフレのせいなのか、思ったよりも出費が高むことに不安を覚えられたようです。ちょうど2024年度から始まる新NISAに合わせて、資産運用しながらの資産活用を実行して、老後の生活を楽しく充実させたいとのご希望でした。

相談者様に、私がお勧めしたのは、「投資方針書」の作成です。事前に、FIWA®の岡本理事長の投資方針書作成についての記事などをお送りして、投資方針について考えてもらったのですが、文書だけで理解するのは難しいようでした。

面談でお話を伺うと、第一の悩みは、金融資産のうちの現金割合についてでした。全額を投資に回すのは、リスクが大きすぎる、しかし一定額を資産運用しないと、90歳までに資産が枯渇する懸念がある・・・ということでした。そこで、まず「つみたてインディくん」の3番目の機能で、新NISAで毎月10万円を90歳まで積み立てたら、どのくらいの金額になるのかをイメージしてもらいました。

次に、同じ「インディくん」の4番目の機能で、手元の現金を取り崩して運用する場合に、90歳まで取り崩し続けるために必要な元金が、どれくらいかのイメージを持ってもらいました。

シミュレーションですから、ご希望に沿って、何回か数字を入れ替えて、計算してお見せしたところ、それまで自分の頭の中で考えていたことが、数字を見ることで具体的なイメージが持てたと言って大変喜んでくれました。ご自分でもソフトを使ってみたいようでしたが、年間使用料金を聞いて諦められました。（笑）



これらの数字を基に、そのあと具体的な投資方針書作成のアドバイスを行いました。相談に来られる前の漠然とした感覚が、シミュレーションの数字を見ることで、投資方針書のイメージができるようになったと喜んでお帰りになりました。

投資方針書を作ってみてから、一度私にメールで送るので、その時もアドバイスが欲しいと言われていたので、メールが来るのが楽しみです。私は、ほんの少しアドバイスをしただけですが、私との面談がきっかけになって、ご夫婦が充実した老後生活を送る手助けができれば、嬉しい限りです。

## MITSUO UYAMA

### SELF-INTRODUCTION

- ◆ After working at International Div. for 20 years including 11 years in US and Spain, engaged in domestic corporate and personal finance for several more years at the Bank. (Certified Financial Planner)
- ◆ After leaving the Bank, changed carrier to chemical company, system company and start-up venture.
- ◆ Majored in international politics and informatics at Open University of Japan (Master Degrees).
- ◆ Born in Osaka and love Kansai because of its abundant nature. (One of my hobbies is trail running)



このページを印刷する

カテゴリ FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ 【Vol.244】 2023年04月17日発行



2023年4月10日

FIWA認定会員 投稿コーナー

## 【Vol.244】FIWA認定会員 投稿コーナー

### 1人の100歩より100人の1歩

寄稿：FIWA®認定正会員  
NPO法人お金で学ぶさんすう 代表理事  
ゆうちょ財団 金融教育支援員  
住山 志津枝氏

\* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

#### 自己紹介

障がいのある弟のいる「きょうだい」であり、障がいのある子の母親。  
弟の浪費に悩む母を見て、障害の特性に合わせたお金の使い方や管理の教育を幼少期から行う必要があると思い、ファイナンシャル・プランナー資格を取得。  
京都市教育委員会「京都学びの街生き方探究館」で7年間、特別支援教育を中心としたお金の指導経験を積んだ後に独立。  
現在、特別支援学校・学級など、公教育と連携したお金の教育カリキュラム構築や普及活動のほか、認定講師育成も行っている。  
教員研修、児童生徒向けのお金の授業や、福祉施設等の本人向け講座、支援員研修などの実施実績が多数あるほか、表彰、新聞等のメディア出演、専門誌の連載、論文発表などの実績もある。



#### 【1人の100歩より100人の1歩】

タイトルの言葉は、現行NPO法の制定に携わられた松原明さんの言葉です。私が運営する「NPO法人お金で学ぶさんすう®」は、公教育との連携による障がい者へのお金の教育が一番の強みです。今回はお金で学ぶさんすう®と京都市立白河総合支援学校の活動で得た「100人の1歩」を紹介します。

#### 白河総合支援学校 「お金で学ぶプロジェクト」

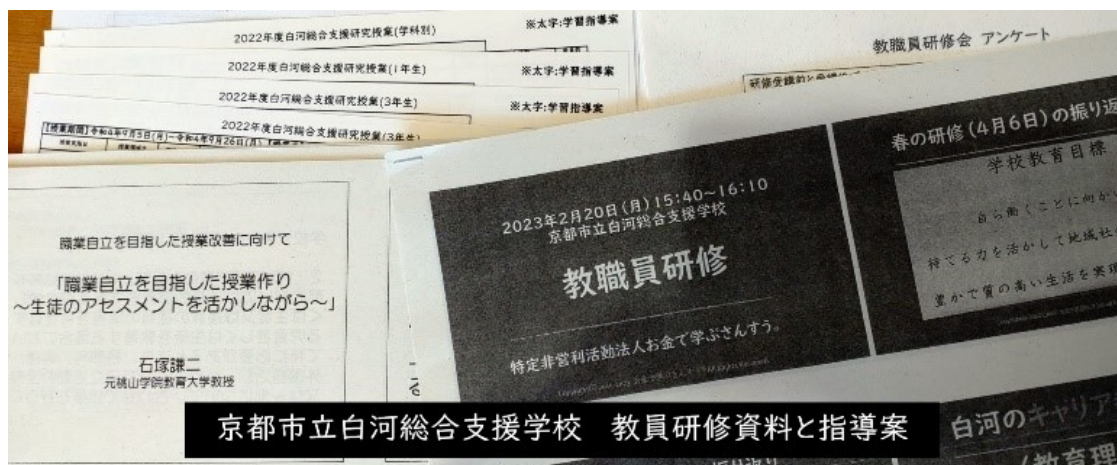
白河総合支援学校では2022年度より研究授業のテーマに「お金」が採用されました。「お金で学ぶプロジェクト」という名のもとで、3年間をかけてお金のカリキュラム構築を行っており、この記事を書いている今、プロジェクト1年目を終えようとしているところです。

先生方は「1人1回お金の授業をする」という課題が与えられました。私たちお金で学ぶさんすう®は、先生方の授業サポートや相談などに応じながらカリキュラム構築全般を支援しています。先生方は授業実施にあたり、「指導案」を作成します。それをもとに2022年度に実施された授業回数や受講生徒数などの集計を取りました。

活動実績合計表(教員研修/カリキュラム構築等)	授業実施				教員研修	
	指導案 (件)	授業数 累計(限)	授業実施 教員数 累計(人)	受講 生徒数 累計(人)	実施回数	受講者数
<b>【白河総合支援学校 研究授業】</b>						
3年生 授業実施 年間合計	5	86	94	900	2	8
2年生 授業実施 年間合計	5	35	47	468	1	12
1年生 授業実施 年間合計	5	82	93	891	2	12
学科別(1年~3年合同) 授業実施 年間合計	2	26	74	858	1	
教員研修実施 年間合計	2		80		2	40
白河総合支援学校 研究授業 年間活動合計	19	229	388	3,117	8	72

**学習指導案の主な傾向**

実施期間:1ヶ月程度  
 実施頻度:週1回  
 実施クラス:1学年ごと(3クラス)  
 実施者:教員1名



京都市立白河総合支援学校 教員研修資料と指導案

### 特別支援教育の特徴とお金の専門家が裏方に徹する理由

特別支援教育と一般的な金融教育の違いは、学ぶ場所と実践量の違いに現れます。たとえば銀行の学習をする場合、一般のお金の教育では教室で日本銀行と銀行、企業や消費者との関係性などの知識やしくみを学びます。(金融リテラシー教育)

### 授業例/銀行について(一般の金融教育)



金融の仕組み、知識(金融リテラシー教育)



## 授業例/銀行について(特別支援教育)

ATMの入出金体験(ネットバンクの操作方法)



ATM端末の操作練習(ライフスキル教育)

特別支援教育で銀行の役割を学ぶ場合は、銀行の協力を得てATMの操作を練習させてもらう事が効果的であり、学ぶ場所は学校の外が中心です。(ライフスキル教育)

支援学校の校内に一般の方も利用できるカフェがあることや、生徒が学校ではなく実習先の職場に直行直帰していても単位になる理由は、現場の実践が重要だからです。

また、特別支援教育では一度の学習で知識の定着をはかることは難しく、繰り返し学習が必要です。環境の変化が苦手な生徒もいるため、外部講師よりは信頼関係を築いている教員と一緒に繰り返し学ぶ方が伸びることも多々あります。このような理由から、お金で学ぶさんすう®では「お金の学習も教育のプロである学校の先生方にお任せすべき」と考えて裏方として活動しているのです。

このページを印刷する

カテゴリー FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ 【Vol.244】2023年04月17日発行



📅 2023年4月10日

動画紹介

## 【Vol.244】FIWA動画紹介

FIWAサムライズ勉強会でご講演いただき、ぜひ、動画での公開をとご要望いただき、新たに5回シリーズで制作した動画です。

① 「いまだに「130万円の壁」を謳うメディアの罪」についてお話しいただきます。

生活者の将来不安をなくし、前向きに暮らし...



② 安倍元首相の国葬翌日の日経1面を飾った年金誤報

生活者の将来不安をなくし、前向きに暮らし...



③ 日本FP協会が講演に招いた学者が唱える年金の世代間格差の誤解

生活者の将来不安をなくし、前向きに暮らし...



④ マクロ経済スライドによって年金の実質額は目減りしていくのか

生活者の将来不安をなくし、前向きに暮らし...



⑤公的年金制度改革の柱は?

生活者の将来不安をなくし、前向きに暮らしていくための公的年金制度の正しい理解 ⑤公的年金制度改革...



このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.244】 2023年04月17日発行



昨年、『週刊SPA!』の企画により実現した証券業界の重鎮の座談会。『インストラライフ』では、その模様を6月号と7月号で掲載しました。昨年は3人合計で197歳でしたが、ひとつ歳をかさね、今年はトータル200歳！

三原さんは辛口の経済評論家として有名ですが、略歴をご紹介しますと、1959年日興証券入社、ロサンジェルス支店長を経た後で80年に独立し、(株)インパルス設立。99年東証ペン文化賞受賞。(社)日本商品投資販売業協会理事、日本IFA協会理事長、大阪経済大学大学院客員教授などを務める。レギュラー番組に「東京マーケット

TODAY」(BSイレブン)などがあり、執筆活動や講演など幅広く活動されています。

### 何が一番大事なのか？

三原 | 僕は1昨年前、中国からの研修生を3カ月うちで預かったことがあります。彼女は今、北京の大学で助教授をやっているんだけど、以前日本にいた時に岡山大学で経済博士の資格を取得したんです。今回日本に来たのは、日本と中国の税制をテーマに近く本を出すらしいんだけど、その下調べとして来日した。彼女は直接、国税庁に行き、日本の税について質問したり、うちの家内にもいろんなことを質問したりして、家内がまいってしまいましたよ。すさまじい行動力と知識力で取材しているんですね。もちろん日本語も堪能だから、自分で実際に情報を得て持ち帰っている。インターネットからの情報とか周りの人間から得る情報じゃなくて生きた情報だから、すごい情報量だよ。

岡本 | 一度一緒させていただいたことがありましたね。私は去年9月に中国の昆明へ行きましたが、そこで日本企業を誘致しようとする団地があったんです。ランチのとき隣にたまたま中国人の若い女性がいたのですが、日本語はペラペラ。中国の大学を出てから日本の大学院へ行き、日本で少し働いて帰国した。だから日本語が堪能なんですけど、彼女が私に言うんですよ。日本の企業で出てくるところがありそうなら、すぐに「私に」知らせてくれと。政府の窓口じゃなくね。そういうハングリーさを持っている。

三原 | 自分自身のやる気なんだよね。

岡本 | まあ、それをテコにして自分が偉くなりたいというのは見え見えなんですけどね。でも、悪いことではない。

三原 | 本当にやる気だよ。今の日本の若い人にはそれがなくなっているような気がする。中国人にとって一番信用できないのは政府なんだから。だから個人で這い上がろうとする。じゃあ日本政府はっていうと、なんだかよくわからない。若者もいつまでも国に、政府に守られているって思っていちゃだめなんです。それって投資家にもいえることで、儲かることばかりじゃなくて損することもあると認識してなきゃだめだよ。

岡本 | 何が大事で何が大事じゃないか、よくわかっていない。基地の問題などで日本人はよく「民意」っていうけど、本当に一番大事なのは国民全体の民意なんです。一つの島の民意じゃなくて。どうしてそういうことを言う人が全然いないのかなあ。

三原 | 言う選挙に落ちるからでしょ。僕はテレビなんかで言っちゃうから、後でえらいことになるんだよね(苦笑)。

日本ではマーケットが公共の財産っていう意識がない。そしてトレーダーばかりだから、バブルがもろくはじける。マーケットは国民共有の大切な財産という認識がないんだよね。バブルは誰にも予測できないけど、日本の状況を見てアメリカは学んだ。だから早く立ち直ってきているよね。日本はバブルをひどいつぶし方をしかたら、いつまでたっても雇用が増えないでいる。

## グローバルな分散投資を考えてみる

司会 | でも、今までのお話を伺っていて、日本も捨てたもんじゃない、日本株を買ってもいいのかなと思いました。

三原 | 何で日本の株だけにこだわるの？ 中国の金持ちなら国際的に分散しますよ。日本の金持ちは分散したらすべて儲けなきゃいけないみたいに思っているけど、それはおかしいですよ。たとえば為替がいい例で、どっちかが上がればどっちかが下がるでしょ。円が上がればドルが下がるとかね。

ただ株と為替が違うのは、株の場合、うまくいけば全部が膨れることがある。しばしばFXと株式投資が並んで論じられるときがあるけど、FXは片方が膨れると片方が沈むから、そこは混同しないことです。これは天と地ほどの違いがありますから。

昭和36年に日興証券がアドバイザーになってスミスバーニーがアメリカでジャパンファンドを売り出したとき、東証の時価総額は2兆円くらいしかなかった。それから30年後に300倍になった。30年後まで待たなくてもいいけど、そのときに日本株に1万ドル投資していたらすごいことです。FXのような商品ならこれほど膨らむことはないでしょう。

成長を買うなら新興国だけど、それひとつだけに投資するのは危険が多い。人民元はこれから安くなるか？ ベトナムのドンが日本円に対して強くなるか、弱くなるか？ インドのルピーはどうなる？と、そういうことをイメージして将来に備えればいいんです。国内ばかり見ていちゃだめですよ。

岡本 | 目先のことを当てようとするから当たらないんですよ。10年先を当てようとするればそれほど難しいことじゃない。

三原 | 明日のことは誰もわからないよね。この前なんて1日で1500も上下するようなことがあるんだから、そんなのわかるわけがない。だから、成長に賭けるのか、安定に賭けるのか、そういうところから考えていけばいい。

安定志向なら配当利回りがいいものを選べばいいし、成長を選ぶならベトナムとかインド、ブラジルファンドのほうがいい。個別に買うのは危険だけど、長い目で見れば第2のジャパンファンドになるかもしれない。

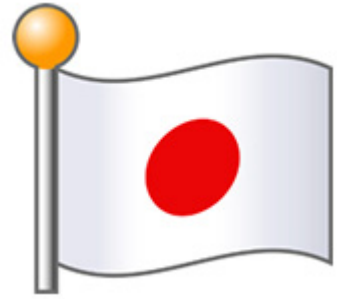


司会 | 成長も見込めない、配当もあまり高くない日本市場というのはどうなんでしょうか？

三原 | マザーズかジャスダックをしっかりと調べてみることだね。リスクが高い分だけ伸びる可能性もある。だって日立とかみずほとか、これから先、時価総額が10倍にもならないでしょ。

司会 | その点、澤上さんはどう思われますか？

澤上 | 基本的には三原さんと同じように成長というのを意識したい。日本人なのに日本をみんな卑下しすぎるんだよね。だから逆に、日本の力はこんなもんじゃないって実証したくなる。だから、あえて日本株を買いますよ。企業を応援していく、一緒に成長していくつもりだね。



だって考えてみてください。韓国や中国はできるだけ早く成長しようとするから、ものすごく短期間で成功するための結果を出そうとして、本当に結果を出している。だから10年、20年、30年とじっくり時間をかけて育てていくような技術の研究はしない。素早くいいとこどりしているように思うけどそれは誤りで、基本の基礎研究というのはものすごく時間がかかるんですよ。ノーベル賞の受賞者を見てもわかりますよね。これはモノづくりの国にしかできないこと。それなのにそういった会社の株価がボロボロに低迷してるでしょ。だからどんどん買って応援させてもらおうと思っているんです。その会社が大きくなればいい。そういう流れを作っていくことが、この国において大事なことだと思いますね。

三原 | 日本株に投資しても、結果グローバルに投資することになるんですよ。トヨタが2兆円儲けたと騒がれたことがありますが、日本国内だけでトヨタは儲けたわけじゃないですから。儲けの6割はアメリカですよ。

岡本 | そこはすごくみんなが間違っ点なんですよ。日本は人口が減って、どんどん高齢化になっていく。成熟経済だから日本株はダメで、新興国はどんどん伸びるからいいみたいに思われているけど、じゃあ日本企業はダメで新興国の企業だけが良いかというとそうではない。日本企業だって新興国の需要で伸びるところがあります。外国の先進国の需要で伸びる企業もあります。それがグローバル化ってことなんです。

## 日本を卑下するのはやめよう

三原 | まず日本を卑下するのはやめましょうよ、ってことです。日本ほど良い国はないという前提で、じゃあ良い国をどのように維持していくかを考えてみる。自分に何ができるのか。幸い小金があると、そしたら企業を応援しましょう、とそういう発想が出てきてほしいですよ。

企業が反映してくれば自分の身分は安定してくるし、将来の不安も消えていく。それが政府への依存症になっているから、若いうちから年金の心配をしたりしている。冷静に考えればわかるよ。今の公的年金制度はいろいろと問題があるから、未来永劫ずっと維持できるわけじゃないじゃない。僕なんて食い逃げて言われちゃうから、必死になって投資家教育をしてるわけです。

岡本 | 今の政権がどうかという問題はおいといて、去年の選挙のときに国民は変化を望んだわけですよ。それから成果がない、成果が出ないって言っていますけど、まだ1年少しかたっていないし、成果ってそんなにすぐに現れるものじゃないですよ。

明治維新があつて、廃藩置県までに4年かかっているわけですよ。1年ぐらいで問題が解決するような簡単なものじゃないですよ。今、抱えているのは5年とか10年ぐらいの目で見ないと。その間にいろんな政党が政権をとっていくのかもしれませんが、そういう長い目で見直していかなくちゃいけないと思います。

二宮尊徳が相馬藩の財政再建計画を立てたときは120年計画でしたよ。代々とやっていくんだけど、今の日本だってそれくらいは必要かもしれませんよ。そのために国の向かっていく方向とか、どういう国にしたいというビジョンがないと向かっていけない。

司会 | 120年待つようなコンセプトを作れるというのがすごいと思います。

岡本 | 今起こっている問題を解決する以上に、やっぱりそれが一番大事ですよ。

三原 | それは、われわれの責任だと思っんですよ。どうやって安心して暮らせる国を残すかね。スポーツ選手やタレントなどが参議院にいますが、国民の民度が試されていると思っますね。

岡本 | 国民以上の政治家って絶対出てこないわけですから、レベルの低い政治家がいるってことは民度が低いってことですよね。

澤上 | そういう意味では、政治も変わらなくてはいけませんよね。政治家の資質ってそういうものじゃない。今の30代、40代の人たちってこれから40年、50年生きていかなきゃいけないのに、国や政治、年金もあてにならないんだったら、自分たちで考えて何とかして生きていかなきゃならない。

自分たちで自分たちの将来を築いていくために、投資っていうものがあるわけ。お金は持っているんだから、自分のお金で子どもや孫たちの将来を築いていけばいい。われわれが飲んだり食べたりして生きていくには、それを生産して供給してくれる企業がないと成り立たない。われわれはモノを買うということで売りに貢献し、なおかつ投資家・株主になることで長期的な経営をサポートしていく。30年後、40年後にその企業が大きく育ったら、何も怖いものはないはず。

先進国はもうダメみたいな風潮があるけど、たとえばスイスは人口600万人くらいしかいないのに世界最大の食品会社のネスレがある。10兆円の売上げを上げるネスレのスイス国内の販売は3%くらいしかない。そういうグローバル企業は日本に比べてはるかにいっぱい先進国にはある。ユニリーバ、アディダスもそうです。だから日本はダメだということはない。これからどんどん淘汰されるけれど、残ったところは強い。円安になったら株は上がるよ。

三原 | おかしいよね。国が貧しくなるのに株が上がるって。外から見たらバランスが取れてないよね。株が上がって東証の時価総額が増えても、ドルで見れば増えていないんだから。国力というのは適度な円高で増えていくというのが一番いいんです。円安になったらよほど付加価値を高めていかないと、日本の製品競争力を失っていくよ。もうマザーマシンだって中国や韓国にとられつつありますからね。

岡本 | 付加価値を得るためには、一番じゃなきゃいけないんですよ。質だけでなくスピードでもね。

三原 | そう。日本は資源がないんだから、技術が一番じゃないといけない。それ以外何で対抗するの？ 輸出企業は大半は海外に出て行っているんですから。通貨が売られるってことは恐ろしいことなんですよ。

僕は日本が戦争に負けたときに満州にいたから、一瞬にして通貨がゼロになった体験があるからよくわかる。通貨が安くなるということは、国力が落ちていくことだという本能的な恐怖を持っている。ギリシャも同じですよ。国力が落ちたから通貨が下がるんです。

岡本 | 為替に関係なく収益が上がるのが本当の企業の強さですよ。要するに円高のときは円高メリットを生かし、円安になったら円安メリットをとればいい。

三原 | そうですね。円安みたいなことで棚ぼたで企業に利益が上がるから、企業が努力を怠る。改革意欲が薄れるでしょうし、適度な緊張感がある円高のほうが日本にはいいですよ。そこから技術革新が生まれる。

岡本 | 円高になればグローバル経営もずっとやりやすくなりますね。外に出て行って良い企業を買収すればいいわけです。

三原 | コストカットより楽ですし、国民トータルとしてみればわれわれの購買力も増すわけですから。むしろ僕が心配しているのは、円安・インフレになったときのことです。一時的に輸出企業が棚ぼた的な感じで株価が上がるかもしれないけど、それには持続性がない。本当に収益を上げていくためには、いかなる局面でも対応できる企業じゃないと、安心して持っていられませんよね。



## グローバル企業に長期投資、これが基本

澤上 | いや、意外に安定していますよ、グローバル企業は。私はこれという会社に長期投資してあげるのが一番安全ですね。

司会 | 日本企業のなかで、グローバル化で株価が上がって会社が成長していくところってありますか？

三原 | 日本電産なんかそうじゃない。BMWもベンツなどの車やコンピュータも、日本電産のモーターがないと製品にならないですからね。永守さんから直接聞いたけど、BMWの最高車には日本電産のモーターが200近く入っているそうです。こういう企業って伸びると思いますよ。社員がやる気が出る会社っていいじゃない。信越化学や日立建機、コマツなどもそうですね。

岡本 | コマツの建機などは、中国でもどこでも工事が行われているかがわかってるんですよね。建機にはGPSがついているから。

澤上 | 同時に機械が何時間稼働しているとか、摩耗度もわかるから部品交換の時期がわかる。そこですぐに部品が入荷したりとかするので、タイムラグが生じない。こういうのが企業の付加価値なんですよ。

岡本 | そういうのは簡単に真似できないと思いますよ。

澤上 | いろんなところで日本企業が生きてくことは、いくらでもできる。それはきとんとした信念をもった経営をしているから。

三原 | だから、単にどこの株価が上がるか下がるかなんて考えるんじゃなくて、もっとイマジネーションすることが大事なんです。さっき電気自動車の話をしましたよね。今の車が電気自動車に変わったらどうなるんだろう？ 熱を出さなくなるから鉄板がいらなくなるとか、部品を一つひとつ組み立てていたのがプラスチックを成形して車輪とモーターとバッテリーをつけるだけになったりとか。今のiPodやiPadみたいに、一番安いものを買ってきて、中国や台湾で組み立てる。だから誰にでも作れる電気自動車になる。そうすると鉄板がいらなくなる、エンジンがいらなくなる……。そして日本の製造業はどこに活路を見出していくんだろう？ 熱に耐えられる鉄は次にどういうイノベーションで乗り越えていくのか、なんて考えたら楽しいじゃない。

澤上 | そういうふうにご想像だとたまにおもしろくなるよね。いろんなことをイメージしながら長期投資するって楽しいよ。

三原 | たとえば新日鉄を買う時に、製造業だけ見ても意味がない。イマジネーションを働かせながら考えると楽しいですよ。

アメリカの寒いところでは道路に塩をまくんだけど、この塩に耐えられるのは日本の鉄板しかないとか、そんな話から昔アメリカでボロ車を買った時はよく底が抜けたんですが今は抜けなくなった。なぜなんだろう？ と考える。技術が卓越していったわけですよ。これが付加価値ですよ。H型鉄鋼などの単純なもの中国とかインドとかに持っていかれていますが、これを日本で作っていたのではやっていけない。価格競争面ですね。だから海外に展開する。企業はいろいろな展開を考えますから、その変化がチャンスにつながったりするわけです。



澤上 | そういう会社の株式を1株でも持っていたら、大化けしますよ。ボロボロに見えるかもしれないけど、ものになったときっていうのは価値が10倍にもなったりしますからね。これが一番儲かるんです。

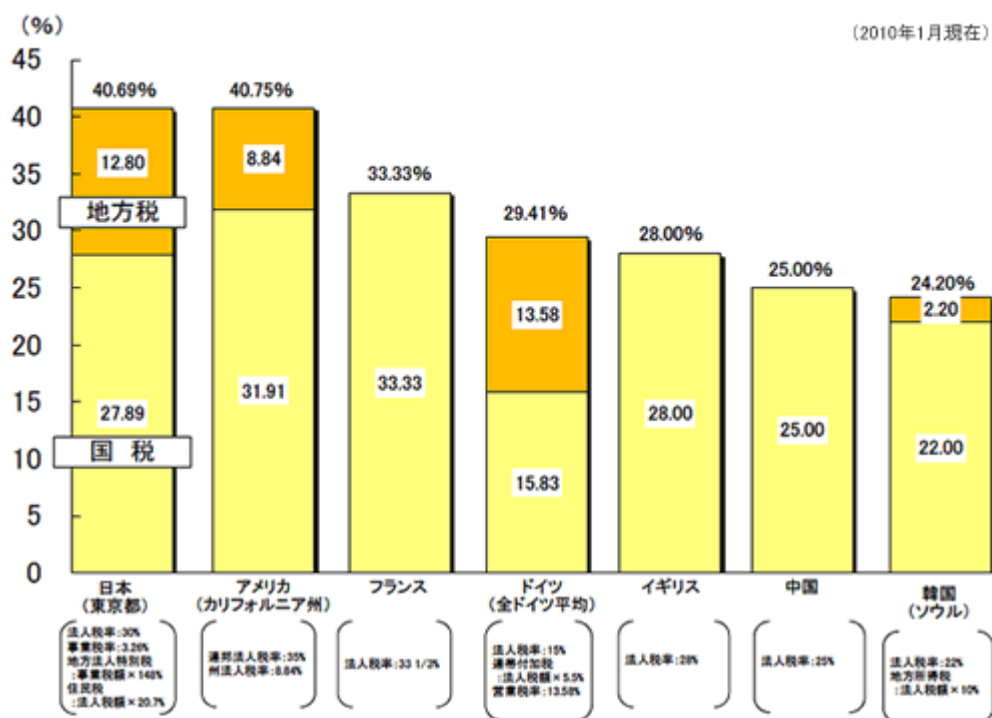


- 司会 | それまでずっと待つわけですね。
- 澤上 | 待ちますよ。持っただけでも全然かまわない。10年たって10倍になったら文句ないでしょう。
- 三原 | そうですよ。それを明日買って、明後日売ろうと考えるからいけない。
- 澤上 | 株式投資って企業に投資するわけですよ。企業の成長を期待するわけですよ。株の成長を期待するわけじゃない。だって、工場を建てるんだって時間がかかりますからね。
- 三原 | 今、農業がブームですけど、種をまいて育てて木になって実が結ぶまで、だいぶ時間がかかりますよ。桃栗3年、柿8年っていうんですから。実がたくさんなったら、その木を譲ってくださいという話もくるでしょう。実のなり方じゃなくて、若いうちから育てていくというのが一番儲かるわけじゃない。
- 岡本 | それが一番儲かるんですよ。だからね、そういう意味ではみんな欲がないんですよ(笑)。本当に欲張りっていうのは、10倍とか20倍とかね。そうでなければ金持ちにはなれませんよ。
- 司会 | 日本株でも今から買って、10倍になるものがあると期待してもいいんでしょうか？
- 三原 | だからグローバルに活躍できる場所はいくらかでもチャンスがあるって言うてるじゃない。
- 岡本 | いくらかでも需要はあるんだから。でも、日本だけで投資するんじゃなくて、やはり国際分散投資を考えたほうが良いと思いますよ。

## 好奇心が金融を変える！？

- 三原 | 僕が心配しているのは、企業が日本にいて落ち込んでいるのに、追いつけを掛けて法人税を上げろなんて言っていると、企業が海外に出ていっちゃうことです。
- 岡本 | 出ていくと株価が上がるかもしれませんね(笑)。
- 三原 | 最低賃金も上げろなんて言っていると、自分で自分の首を絞めることになりますよね。雇用のチャンスがなくなる。企業に出ていけっていうのと同じですからね。
- 今、世界中が法人税を下げようとして来てくださって誘致合戦やっているのにね。日本は法人性悪説とか、事業性悪説とかあるから法人税が高いままです。わざわざここにいてまで高い法人税払うなら、海外に本社を移しましょうってなりますよね。
- 澤上 | 法人税のOECDの平均が28%、日本は約40%、韓国は約24%ですよ。
- 三原 | 香港は16%。シンガポールはもっと低いよね。企業立国でいくと決めていますからね。

## < 法人所得課税の実効税率の国際比較 >



- (注) 1. 上記の実効税率は、法人所得に対する租税負担の一部が損金算入されることを調整した上で、それぞれの税率を合計したものである。
2. 日本の地方税には、地方法人特別税(都道府県により国税として徴収され、一旦国庫に払い込まれた後に、地方法人特別譲与税として都道府県に譲与される)を含む。また、法人事業税及び地方法人特別税については、外形標準課税の対象となる資本金1億円超の法人に適用される税率を用いている。なお、このほか、付加価値割及び資本割が課される。
3. アメリカでは、州税に加えて、一部の市で市法人税が課される場合があり、例えばニューヨーク市では連邦税・州税(7.1%、付加税[税額の17%])・市税(8.85%)を合わせた実効税率は45.67%となる。また、一部の州では、法人所得課税が課されない場合もあり、例えばネバダ州では実効税率は連邦法人税率の35%となる。
4. フランスでは、別途法人利益社会税(法人税額の3.3%)が課され、法人利益社会税を含めた実効税率は34.43%となる(ただし、法人利益社会税の算定においては、法人税額から76.3万ユーロの控除が行われるが、前記実効税率の計算にあたり当該控除は勘案されていない)。なお、法人所得課税のほか、法人概算課税及び国土経済税(地方税)等が課される。
5. ドイツの法人税は連邦と州の共有税(50:50)、連邦付加税は連邦税である。なお、営業税は市町村税であり、営業収益の3.5%に対し、市町村ごとに異なる賦課率を乗じて税額が算出される。本資料では、連邦統計庁の発表内容に従い、賦課率388%(2008年の全ドイツ平均値)に基づいた場合の計数を表示している。
6. 中国の法人税は中央政府と地方政府の共有税(原則として60:40)である。
7. 韓国の地方税においては、上記の地方所得税のほかに資本金額及び従業員数に応じた住民税(均等割)等が課される。

岡本 | いろんな企業が出ていったあとで、あわてて法人税を下げることになるんでしょうね、日本もきっと。後手後手ですよな。

三原 | 追い込まれてからやったって、誰も日本には来てくれないことになる。

澤上 | 本当に政治は後手後手だから、期待していませんよ。

三原 | 日本の労働者も考えないといけないよね。企業が海外に出て行っていくことは、国内で働く市場が少なくなるってことですからね。土地が安い上に中国人やベトナム人の労働力の安さを見ると、海外へ出ていってしまうよね。これが労働市場で、オープンになっているわけです。日本は雇用を輸出していて、給料も向こうで払っているんですよ。

岡本 | やっぱりアジア全体がひとつの共同体みたいになっているから、日本の若い人が中国語でもベトナム語でも覚えて、向こうでいい職につけば日本でもらう以上の給料がとれるんじゃないでしょうか。

三原 | 少し前までMade in Chinaは日本国内では安物の代名詞みたいでしたけど、かつての日本もアメリカに行ったらMade in Japanは安物だったんですよ。

岡本 | おもちゃみたいでしたね。

三原 | そのうちそれが高級になってきて、Made in USAがなくなって、ホンジュラスやチリ、マレーシアが増えてきた、今ではなかなかMade in USAなんて探せないですよ。でも、アメリカは潰れていない。じゃあどうしたかっていうことを考えて学ばないと。アメリカは、今度は金融で、知恵で食べていくことに変わっていった。情報ですよ。だから断絶の時代っていったわけ。昔のダメなもの、もういくらやってもダメなんだから。パッと割り切って新しい時代に対応しないとね。

司会 | それがくるからこそ、チャンスがあるんですね。

三原 | だって日本のスーパーでもそうでしょ。Made in Japanを探すのは難しいでしょ。

司会 | そうですね。今や高級品ですね。

三原 | うちに来た中国からの研修生が言ってましたけど、日本で売られているMade in Chinaは品質がいいから買えるって(笑)。やっぱり検査が厳しいそうですよ。でもね、日本で作ると高いコストがかかるから、日本の軽工業は中国にはかなわない。そうするとプレタポルテでいくのか、オートクチュールでいくのか。日本はオートクチュールでいくしかないでしょうね。そうすると余る労働力をどうするかだけど、サービス産業に持っていかないとダメでしょうね。

本当は金融産業がもっと大きくなればいいんですよ。でも国の政策なんかで、金融業は儲けるからけしからんみたいにしてるでしょう。消費者金融とか商工ファンド系は相当雇用を減らしましたよね。イギリスなんか世界中の金融機関を誘致したりしたんだから、金融人口ってすごいですよね。一時GDPの26%ぐらいまでいきましたよね。人数に換算するとものすごい数になりますね。

岡本 | 日本の証券会社の一般従業員数は一番ピークで16万人くらいでしたか。今は10万人くらいですね。銀行業も20数万人くらいでしょう。

三原 | 国民が結構な金融資産を持っているんだから、200万人くらいはいてもいいと思うんだけどね。お国柄というか、金融で稼ぐのは「悪」だと思われている。そうじゃなくて、金融がもつ本来の意味を知ってもらって、伸ばしていかなくちゃダメなんだ。それには投資家の方の自覚と応援が必要になる。それが日本を救う一番の近道。だから後は岡本さんに教育してもらって、澤上さんに相談してください(笑)。

司会 | とてもおもしろいお話をありがとうございました。皆さんの思考のほうが若い人よりよっぽど若い！

岡本 | 若い人が年とったんじゃないですか(笑)。

三原 | young at heartって言葉がありますけど、心を若く持つことは誰でもできるんですよ。いつも好奇心を持って、「どうしてそうなるの？ おもしろいじゃない」って思っていればいいんですから。

司会 | そうですね。若い人が守りに入っているのはダメですよ。3人で200歳になられる皆さんの若いパワーをいただきたいと思います。今日はありがとうございました。

# <モデルポートフォリオ:2023年3月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	1.24	3.23	8.39	9.80	13.94	3.93	27.54	56.01	150.26
	成長型	1.28	1.73	5.81	7.03	9.45	2.37	17.27	35.45	101.30
	安定型	1.32	0.12	3.09	4.15	5.53	0.77	7.55	16.95	58.86
2資産型	積極型	0.91	1.58	10.49	10.65	15.31	2.69	32.54	66.13	187.46
	成長型	1.09	0.80	7.48	7.83	10.99	1.48	21.17	42.63	126.31
	安定型	1.27	-0.13	4.32	4.91	7.38	0.22	10.45	21.77	74.42

\* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2022年3月末に1万円投資資金を積み立て始め、2023年2月末の投資資金までとする(2023年3月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。  
出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール (<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>) まで。

## ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

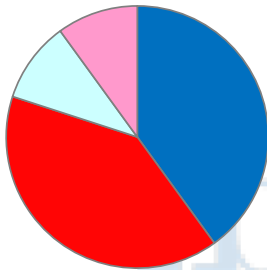
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。  
<http://www.investlife.jp/>

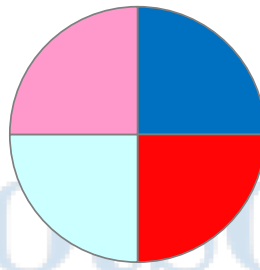
### 4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

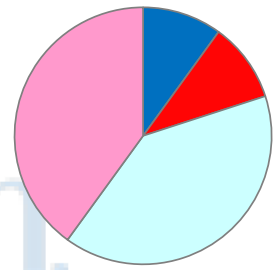
#### 積極型



#### 成長型



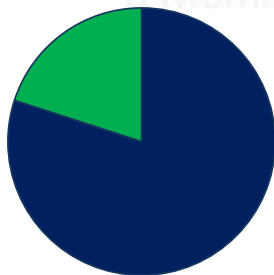
#### 安定型



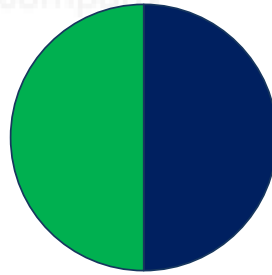
### 2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

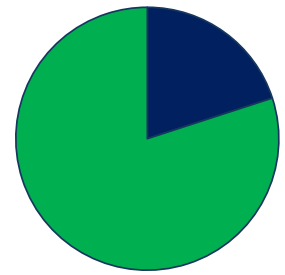
#### 積極型



#### 成長型



#### 安定型



# <純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2023年3月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。

今回順位	前回(22年12月末)順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の月末資産額				2023年3月末		イボットソン分類
				1か月	1年	5年(年率)	10年(年率)		10年(年率)	10年(年率)	2000年1月~279万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~279万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	
1	1	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	-0.2	-2.6	—	—	—	0.9	—	—	—	12.1	—	—	—	18,757	19,167	外国株式・北米型
2	2	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	-0.3	-1.2	—	—	—	2.3	—	—	—	12.3	—	—	—	9,602	17,078	外国株式・世界型
3	3	AM-One	グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	3.0	-7.0	—	—	—	8.2	—	—	—	13.0	—	—	—	8,622	10,729	外国株式・世界型
4	4	楽天投信	楽天・全米株式インデックス・ファンド	-1.3	-3.8	14.7	—	—	0.2	43.4	—	—	12.0	86.0	—	—	8,234	19,628	外国株式・北米型
5	5	SBI AM	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	-0.2	-2.6	—	—	—	0.9	—	—	—	12.1	—	—	—	8,231	17,566	外国株式・北米型
6	6	アライアンス・B	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	2.8	-4.3	16.8	17.9	19.6	2.6	43.3	127.5	—	12.3	86.0	273.0	—	7,178	44,025	外国株式・北米型
7	7	ゴールドマン・S	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	3.9	-12.0	14.6	17.1	22.6	2.1	31.3	117.1	379.3	12.3	78.8	260.5	1,337.1	6,798	20,765	外国株式・北米型
8	10	AM-One	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	2.8	-7.2	10.0	—	—	8.1	18.0	—	—	13.0	70.8	—	—	5,158	24,588	外国株式・世界型
9	8	AM-One	投資のソムリエ	-0.6	-7.6	-0.4	0.7	3.5	-3.3	-7.6	-3.0	—	11.6	55.4	116.4	—	5,045	10,445	アロケーション・リスクコントロール型
10	9	レオス	ひふみプラス	0.6	-0.5	2.2	12.1	17.1	3.0	8.6	50.2	—	12.4	65.2	180.3	—	4,893	46,416	国内株式・キャッシュバランス型
11	11	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	2.8	2.3	4.7	9.3	18.4	5.0	19.3	46.6	111.1	12.6	71.6	175.9	588.9	4,681	30,870	国内株式・大型成長型
12	12	ニッセイAM	<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国株式インデックスファンド	-0.5	-1.1	13.5	—	—	2.5	43.0	—	—	12.3	85.8	—	—	4,551	26,868	外国株式・世界型(除く日本)
13	13	フィデリティ投信	フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	-4.8	4.2	—	—	—	3.0	—	—	—	12.4	—	—	—	4,343	23,228	外国株式・世界型
14	14	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	-0.5	-1.1	13.6	—	—	2.4	43.1	—	—	12.3	85.9	—	—	4,169	20,329	外国株式・世界型(除く日本)
15	15	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3.0	3.2	13.2	—	—	11.6	47.3	—	—	13.4	88.4	—	—	3,986	10,553	外国株式・世界型
16	16	三井住友トラスト	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	1.3	-18.4	8.2	—	—	-1.5	12.1	—	—	11.8	67.3	—	—	3,796	14,483	外国株式・世界型
17	19	キャピタル・I	キャピタル世界株式ファンド	-0.3	-5.0	12.4	11.4	19.0	2.5	35.0	76.5	—	12.3	81.0	211.8	—	3,591	21,121	外国株式・世界型
18	17	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	0.5	-0.5	7.2	7.3	10.9	0.7	19.8	38.4	—	12.1	71.9	166.1	—	3,495	19,620	アロケーション・標準型
19	18	さわかみ投信	さわかみファンド	2.5	2.5	3.7	8.5	17.0	3.9	16.1	37.0	108.0	12.5	69.7	164.4	580.4	3,487	31,204	国内株式・大型ブレンド型
20	20	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	2.9	3.1	13.1	—	—	11.6	46.7	—	—	13.4	88.0	—	—	3,345	26,621	外国株式・世界型

対象は追加型株式投資信託のうち2023年3月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF、DC・SMAなど専用投資信託を除く)。

積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2022年3月末に1万円で積み立てを開始し、2023年2月末投資分までの2023年3月末における運用成果とする(2023年3月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてご送信ください。